

平成20年度常緑果樹関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成20年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成20年11月20日(木)～21日(金)にホテルラングウッドにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者29名、委託関係者16名ほか、計57名の参集を得て、除草剤3薬剤(10点)、

生育調節剤4薬剤(69点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成20年度 常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種類・継 続の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判定	判定内容
1. NH-007フロアブル ピラフルフェンエチル; 0.16%、 グリホサートイソプロピルアミン塩:30% [日本農薬]	カンキツ	適用性 継続	鹿児島大学 高知農技果試 熊本農研天草 (3)	[雑草全般 (マルハワヅクサ、ヤブガラシ、アメリカササガ、オ、マルハワヅクサ)] ・ 春期および夏期 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 600, 1000mL<100> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウンドアップハイロード液 ・ 1000mL<100>	実・ 継	実) [カンキツ: 一年生雑草、多年生雑草] ・ 春～夏期、 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 400～600mL/10a <100L/10a> ・ 茎葉処理 [カンキツ: ヤブガラシ、アメリカササガ、オ、マルハワヅクサ] ・ 春～夏期、 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 600～1000mL/10a <100L/10a> ・ 茎葉処理 注) マルハワヅクサは刈取代用効果であり、後次発生がみられる 継) ・ マルハワヅクサ防除について年次変動の確認 ・ 効果の確認された草種; カラスノエンドウ、メシバ、エノコログサ、オオアレチノギク、スズメノエンドウ、オオノコギリ、ハコベ、スズメノエンドウ、ホトケノザ、オシロイバナ、イヌビロ、エノコログサ、カタバミ、スズメノカタビラ、ヤブガラシ、ヒメカシヨモギ、アメリカササガ、オ、ヨメナ
	カンキツ	薬害 継続	三重大 神奈川農技根府川 (2)	[薬害試験] ・ 春期及び夏期(2回処理) 2000mL→2000mL<100> 土壌処理 展着剤不要 ・ 春期または夏期(1回処理) 5000mL<100> 茎葉処理 展着剤不要 ・ 春期または夏期(1回処理) 100倍 樹幹処理 展着剤不要		
2. NNKH-100フロアブル ピラフルフェンエチル; 0.0016%、 グリホサートイソプロピルアミン塩:0.30% [日本農薬]	カンキツ	適用性 継続	鹿児島大学 神奈川農技根府川 愛知農総試蒲郡 広島農技 (4)	[雑草全般] ・ 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 40, 60, 100L(希釈せずそのまま散布) ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) サンダーボルト007 400mL<100>	実・ 継	実) [カンキツ: 一年生雑草、多年生雑草] ・ 雑草生育期(草丈30cm以下) ・ 60L/10a(希釈せずそのまま散布) ・ 茎葉処理 注) シロツメクサには効果が劣る 継) ・ 40L、100L/10aでの効果、薬害の確認 ・ 効果の確認された草種; オオアレチノギク、スズメノエンドウ、メシバ、ハコベ、イヌビロ、カタバミ、スズメノカタビラ、ヤブガラシ、ヒメカシヨモギ、アメリカササガ、オ、ヨメナ

A. 除草剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量 L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
3. MON-96A液 グリホサートアンモニウム塩 41% [日産化学工業]	カンキツ	適用性 継続 (H19)	熊本農研天草 (秋) (1)	[マルバツユクサ] ・ 夏期および秋期 雑草生育期 (草丈 30cm 以下) ・ 500mL<25, 100> 1000mL<25> ・ 茎葉処理 ・ 展着剤不要 対) ラウトアップハイポート液 500mL<50>	実 ・ 継	[カンキツ: 一年生雑草、多年生雑草] ・ 春～夏期 雑草生育期 (草丈 30cm 以下) 一年生雑草対象; 250～500mL/10a <25～50L/10a (専用ノズル使用)、 50～100L/10a> 多年生雑草対象; 500～1000mL/10a <25～50L/10a (専用ノズル使用)、 50～100L/10a> スキナ対象; 1500～2000mL/10a <25～50L/10a (専用ノズル使用)> マルバツユクサ対象; 草丈 30cm 以下 500～1000mL/10a <25～50L/10a (専用ノズル 使用)、50～100L/10a> 1 回処理 草丈 60cm 以下 2000mL/10a<50L/10a> 1 回または 2 回処理 茎葉処理 注) マルバツユクサは刈取代用効果であ り、後次発生がみられる ・ 夏～秋期 マルバツユクサ対象; 草丈 30cm 以下 500～1000mL/10a <25～50L/10a (専用ノズル使用)、 50～100L/10a> 茎葉処理 注) マルバツユクサは刈取代用効果であ り、後次発生がみられる ・ 秋冬期 雑草生育期 (草丈 30cm 以下) 250～500mL/10a <25～50L/10a (専用ノズル 使用)、50～100L/10a> 茎葉処理 継) ・ 秋期水量 25L 処理でのマルバツユ サに対する効果について年次変 動の確認 ・ 効果の確認された草種; イヌビユ、ヤブガラシ、メシバ、ハマスガ、マ ルバツユクサ、オシバ、エネガサ、ハコバ、エ ノコロカサ、スベリヒコ、ヒルガオ、イヌタデ、ヒ メジョオン、ヤエムクワ、カラスノエンドウ、スキ ナ、オオイヌフクリ、ホトケナギ、オランダミナ グサ、コシキリナ、ネズミミギ、イヌビエ、ヨモ ギ、タンポポ、イヌミギ、スイハ、エゾノキ シギシ

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)、 [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草;ねらい] ・処理時期 ・薬量g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判 定	判定内容
1. AKD-8147水溶 1-ナフタレン酢酸ナトリウ ム:22% [アケカネショウ]	ウシユウミ カン (加温 栽培)	適用性 継続	＜神奈川農技根府川＞ ＜愛知農総試蒲郡＞ (2)	[結果母枝充実・着果促進] ・夏秋梢萌芽時および再萌芽時 2～3回 ・1000～2000倍 ・立木全面散布	継	[ウシユウミカン(加温) 結果母枝充実、 着果] (継) ・効果、薬害の確認
		適用性 継続 (H19)	愛知農総試蒲郡 大分果樹研 (2)	[結果母枝充実・着果促進] ・夏秋梢萌芽時および再萌芽時 2～3回 ・1000～2000倍 ・立木全面散布		
	ウシユウミ カン(露 地)	適用性 継続	＜果樹研カンキツ(口之 津)＞ ＜三重大＞ (2)	[着花、結果促進] ・生理的花芽分化期前後 ・1000, 2000倍 2～3回 ・立木全面散布	継	[ウシユウミカン(露地) 着花、着果促進] (継) ・効果、薬害の確認
	ウシユウミ カン	適用性 新規 (H19)	果樹研カンキツ(口之 津) 三重大 広島農技 (3)	[着花、結果促進] ・生理的花芽分化期前後 ・1000, 2000倍 2～3回 ・立木全面散布		
	ウシユウミ カン	適用性 継続 (H19)	和歌山果試 (1)	[間引き摘果] ・二次生理落果期(満開20～40 日後) ・1000～1500倍 ・立木全面散布	実 (従米どおり)	実) [ウシユウミカン;間引き摘果] ・二次生理落果発生期 ・1000～1500倍 ・立木全面散布または枝別散布
	カンキツ (天草)	適用性 継続	佐賀果試<中間> ＜宮崎総農試亜熱帯> (2)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期および再萌芽期 ・1000, 2000倍 1～3回 ・立木全面散布	継	[天草;夏秋梢発芽防止] (継) ・効果、薬害の確認
	カンキツ (不知 火)	適用性 継続	福岡農総試<中間> ＜熊本農研天草> 宮崎総農試<中間> (3)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期および再萌芽期 ・1000, 2000倍 1～3回 ・立木全面散布	実・ 継	実) [不知火;夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期～再萌芽期 ・1000倍 3回以内 ・立木全面散布 (継) ・2000倍での効果、薬害の確認
	不知火	適用性 新規 (H19)	果樹研カンキツ(口之 津) 愛媛果試 熊本農研果樹 (3)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期および再萌芽期 ・1000, 2000倍 1～3回 ・立木全面散布		
	不知火	適用性 (自主) (H19)	福岡農総試 (1)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢再萌芽期 ・1000倍 1回 ・立木全面散布		
	カンキツ (せと か)	適用性 継続	＜愛媛果試みかん研 ＞ (1)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期および再萌芽期 ・1000, 2000倍 1～3回 ・立木全面散布	継	[せとか;夏秋梢発芽防止] (継) ・効果、薬害の確認
	せとか	適用性 新規 (H19)	山口柑きつ振興 (1)	[夏秋梢発芽防止] ・新梢萌芽期および再萌芽期 ・1000, 2000倍 1～3回 ・立木全面散布		

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
AKD-8147水溶	カンキツ (はるみ)	適用性 継続	<愛媛果試> <長崎果試> (2)	[夏秋梢発芽防止] ・ 新梢萌芽期および再萌芽期 ・ 1000, 2000倍 1~3回 ・ 立木全面散布	継	[はるみ; 夏秋梢発芽防止] (継) ・ 効果、薬害の確認
	はるみ	適用性 新規 (H19)	長崎果試 (1)	[夏秋梢発芽防止] ・ 新梢萌芽期および再萌芽期 ・ 1000, 2000倍 1~3回 ・ 立木全面散布		
	カンキツ (ボンカン)	適用性 継続	<香川農試府中> <高知農技果試> (2)	[夏秋梢発芽防止] ・ 新梢萌芽期および再萌芽期 ・ 1000, 2000倍 1~3回 ・ 立木全面散布	継	[ボンカン; 夏秋梢発芽防止] (継) ・ 効果、薬害の確認
	ボンカン	適用性 新規 (H19)	香川農試府中 (1)	[夏秋梢発芽防止] ・ 新梢萌芽期および再萌芽期 ・ 1000, 2000倍 1~3回 ・ 立木全面散布		
	カンキツ (不知火)	適用性 継続	<愛媛果試> <熊本農研果樹> (2)	[果実肥大促進] ・ 果実肥大期 (7~8月*) *摘果直後 ・ 4000, 8000倍 ・ 1回散布, 2回散布 ・ 立木全面散布	継	[不知火; 果実肥大促進] (継) ・ 効果、薬害の確認
	不知火	適用性 新規 (H19)	果樹研カンキツ(口之津) 愛媛果試 (2)	[果実肥大促進] ・ 果実肥大期 (7~8月*) *摘果直後 ・ 4000, 8000倍 ・ 1回散布, 2回散布 ・ 立木全面散布		
2. RIC-1液 海藻ホシネット [ロイヤル インターストリス]	河内晩柑	適用性 自主 (H19)	愛媛果試 (1)	[後期落果防止] ・ 着色初期およびその2週間後 ・ 1000, 2000倍 2回 ・ 立木全面散布	継	[河内晩柑; 後期落果防止] (継) ・ 効果、薬害の確認
	ウンシュウミ カン(成木)	適用性 継続	<広島農技> <愛媛果試みかん研> (2)	[隔年結果軽減] ・ A区; 2-3月原液1L/10a(土壌 処理*)→4月上中、5月上中、6 月上中、12月1000倍各1回(茎 葉処理) ・ B区; 3月上中、4月上中、5月 中下、6月中下、12月1000倍各1 回(茎葉処理)	継	[ウンシュウミカン; 隔年結果軽減] (継) ・ 効果、薬害の確認
	ウンシュウミ カン	適用性 継続 (H19)	<広島農技> 山口柑きつ振興 愛媛果試みかん研 (3)	[隔年結果軽減] ・ A区; 2-3月原液1L/10a(土壌 処理*)→4月上中、5月上中、6 月上中、12月1000倍各1回(茎 葉処理) ・ B区; 3月上中、4月上中、5月 上中、6月上中、12月1000倍各1 回(茎葉処理)		

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・維 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
RIC-1液	不 知 火、は るみ	作用性 継続	〈果樹研カンキツ(ロ之 津)〉 (1)	[処理量増加による生育、収量、 品質への影響] ・ A区; 2-3月原液1.5L/10a (土 壌処理) →4、5、6、7、8、9、 10、11、12月2000倍各1回 (茎 葉処理) ・ B区; 3、4、5、6、7、8、9、 10、11、12月1500倍各1回 (茎 葉処理)	一	(作用性)
	不知火 はるみ	作用性 新規 (H19)	果樹研カンキツ(ロ之 津) (1)	[処理量増加による生育、収量、 品質への影響] ・ A区; 2-3月原液1L/10a (土 壌処理) →4、5、6、7、8、9、10、 11、12月2000倍各1回 (茎葉処 理) ・ B区; 3、4、5、6、7、8、9、 10、11、12月2000倍各1回 (茎 葉処理)		
	はるみ	適用性 継続	〈広島農技三原〉 〈山口柑きつ振興〉 〈愛媛果試みかん研 〉 〈佐賀果試〉 〈宮崎総農試亜熱帯 〉 (5)	[樹勢回復、隔年結果防止] ・ A区; 2-3月原液1.5L/10a (土 壌処理) →4、5、6、7、8、9、 10、11、12月2000倍各1回 (茎 葉処理) ・ B区; 3、4、5、6、7、8、9、 10、11、12月1500倍各1回 (茎 葉処理)	継	{はるみ; 樹勢回復、隔年結果軽 減} 継) ・ 効果、薬害の確認
	はるみ	適用性 継続 (H19)	広島農技三原 山口柑きつ振興 愛媛果試みかん研 愛媛果試岩城 佐賀果試 宮崎総農試亜熱帯 (7)	[樹勢回復、隔年結果防止] ・ A区; 2-3月原液1L/10a (土 壌処理) →4、5、6、7、8、9、10、 11、12月2000倍各1回 (茎葉処 理) ・ B区; 3、4、5、6、7、8、9、 10、11、12月2000倍各1回 (茎 葉処理)		
3. シンベリン水溶 剤シンベリン:3.1% [日本シンベリン研究 会]	清見	適用性 新規 (H19)	広島農技三原 (1)	[花芽抑制による樹勢維持] ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ 25、50ppm ・ 立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上	実 ・ 継	実) [カンキツ; 花芽抑制による樹勢維持] ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ 25～50ppm ・ 立木全面散布または枝別散布
	はるみ	適用性 新規 (H19)	山口柑きつ振興 香川農試府中 (2)	[花芽抑制による樹勢維持] ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ 25、50ppm ・ 立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上		・ 効果の確認された品種; ウンシュウカン、伊予柑、不知火、 清見、はるみ 継) ・ 清見、はるみ、ボンカンに対する効 果、薬害の確認
	ボンカン	適用性 新規 (H19)	山口柑きつ振興 鹿児島農総果樹 (2)	[花芽抑制による樹勢維持] ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ 25、50ppm ・ 立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上		

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
ジ・ペ・レリン水溶	ウンシュウミ かん	適用性 新規 (H19)	愛知農総試蒲郡 山口柑きつ振興 (2)	[水腐れ軽減] ・ 着色終期 (収穫7日前まで) ・ 0.5, 1ppm ・ 果実散布 (枝別) 注) 50~100果以上、3反復	実・ 継 (従 来 ど お り)	実) [不知火; 水腐れ防止] ・ 着色終期 ・ 0.5~1ppm ・ 果実散布 [ポンかん; 水腐れ防止] ・ 着色始期~3, 4分着色期 ・ 0.5ppm ・ 立木全面散布 注) 着色が遅れることがある
	はれひ め	適用性 新規 (H19)	佐賀果試 (1)	[水腐れ軽減] ・ 着色終期 (収穫7日前まで) ・ 0.5, 1ppm ・ 果実散布 (枝別) 注) 50~100果以上、3反復		継) ・ ウンシュウかん、はれひめに対する効 果、薬害の確認 ・ ポンかん着色終期処理での効果、 薬害の確認
	ボンかん	適用性 新規 (H19)	香川農試府中 高知農技果試 熊本農研天草 (3)	[水腐れ軽減] ・ 着色終期 (収穫7日前まで) ・ 0.5, 1ppm ・ 果実散布 (枝別) 注) 50~100果以上、3反復		
	小粒カン キツ (スタ グチ)	適用性 継続	徳島果樹研 徳島果樹研県北 (2)	[果皮の緑色維持] ・ ①収穫予定約30日前 ②収穫予定約7日前 ・ 10, 25, 50ppm ・ 立木全面散布	実・ 継	実) [カンキツ; 果皮の緑色維持] ・ 収穫予定7~30日前 ・ 10~50ppm ・ 散布 (果実表面に十分付着する よう)
	小粒カン キツ (長 門ユズキ チ)	適用性 継続	山口農技セ (2) (2)	[果皮の緑色維持] ・ ①収穫予定約30日前 ②収穫予定約7日前 ・ 10, 25, 50ppm ・ 立木全面散布		・ 効果の確認された品種; カハス、ス ダチ、長門ユズキチ、ヘバス、レモン
	小粒カン キツ (ヘバ ス)	適用性 継続	宮崎総農試 (1)	[果皮の緑色維持] ・ ①収穫予定約30日前 ②収穫予定約7日前 ・ 10, 25, 50ppm ・ 立木全面散布		継) ・ ヘバス、レモンに対する効果、薬害に ついて年次変動の確認
	小粒カン キツ (ヘバ ス)	適用性 自主 (H19)	宮崎総農試 (2)	[果皮の緑色維持] ・ ①収穫予定約30日前 ②収穫予定約15日前 ・ 25, 50, 100ppm ・ 立木全面散布		
	小粒カン キツ (レモ ン)	適用性 継続	<広島農技三原> <愛媛果試> (2)	[果皮の緑色維持] ・ ①収穫予定約30日前 ②収穫予定約7日前 ・ 10, 25, 50ppm ・ 立木全面散布		
	小粒カン キツ (レモ ン)	適用性 自主 (H19)	愛媛果試 (1)	[果皮の緑色維持] ・ ①収穫予定約30日前 ②収穫予定約7日前 ・ 10, 50ppm ・ 立木全面散布		
	キンカン	適用性 新規	宮崎総農試亜熱帯 鹿児島農総果樹 徳島果樹研 (自主) (3)	[着果促進] ・ 1番花開花期 ・ 100, 300, 500ppm ・ 花に散布	実・ 継	実) [キンカン; 着果促進] ・ 1番花開花期 ・ 300ppm ・ 花に散布
	キンカン	適用性 自主 (H19)	宮崎総農試亜熱帯 (1)	[着果促進] ・ 1番花開花期 ・ 300, 500ppm ・ 花に散布		継) ・ 年次変動の確認

B. 生育調節剤

薬剤名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種類・継 続の別	試験担当場所 (数)	試験設計 [対象雑草; ねらい] ・処理時期 ・薬量 g・mL<水量L>/10a ・処理方法	判定	判定内容
4. ジベレリン水溶+PDJ 液 ジベレリン:3.1%+ プロトキシモン:5% [日本ジベレリン研究 会, 日本ゼウ]	ウンシュウ かん	適用性 継続	<愛知農総試蒲郡> <和歌山果試> <山口柑きつ振興> <愛媛果試みかん研> (4)	[花芽抑制による樹勢維持] ・収穫直後～収穫約1ヶ月後 ①PDJ50ppm+GA10ppm ②PDJ25ppm+GA10ppm 対照: GA25ppm ・立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上	継	継) ・効果、薬害の確認
	ウンシュウ かん	適用性 新規 (H19)	愛知農総試蒲郡 広島農技 (2)	[花芽抑制による樹勢維持] ・収穫直後～収穫約1ヶ月後 ①PDJ50ppm+GA10ppm ②PDJ25ppm+GA10ppm 対照: GA25ppm ・立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上		
	伊予柑	適用性 新規	<香川農試府中> <愛媛果試みかん研> (2)	・[花芽抑制による樹勢の維持収 穫直後～収穫約1ヶ月後 ①PDJ50ppm+GA10ppm ②PDJ25ppm+GA10ppm 対照: GA25ppm ・立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝 を試験区とし、3反復以上	保 留	—
	清見	適用性 新規	<和歌山果試> <佐賀果試> (2)	・[花芽抑制による樹勢の維持収 穫直後～収穫約1ヶ月後 ①PDJ50ppm+GA10ppm ②PDJ25ppm+GA10ppm 対照: GA25ppm ・立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝 を試験区とし、3反復以上	保 留	—
	不知火	適用性 新規	<愛媛果試みかん研> <熊本農研果樹> (2)	・[花芽抑制による樹勢の維持収 穫直後～収穫約1ヶ月後 ①PDJ50ppm+GA10ppm ②PDJ25ppm+GA10ppm 対照: GA25ppm ・立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝 を試験区とし、3反復以上	保 留	—
	はるみ	適用性 継続	<山口柑きつ振興> (1)	・[花芽抑制による樹勢の維持収 穫直後～収穫約1ヶ月後 ①PDJ50ppm+GA10ppm ②PDJ25ppm+GA10ppm 対照: GA25ppm ・立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝 を試験区とし、3反復以上	継	継) ・効果、薬害の確認
	はるみ	適用性 新規 (H19)	山口柑きつ振興 (1)	[花芽抑制による樹勢維持] ・収穫直後～収穫約1ヶ月後 ①PDJ50ppm+GA10ppm ②PDJ25ppm+GA10ppm 対照: GA25ppm ・立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上		

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
ジベレリン水溶+PDJ液 [委託者]	ボンカン	適用性 新規 (H19)	山口柑きつ振興 高知農技果試 (2)	[花芽抑制による樹勢維持] ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ ①PDJ50ppm+GA10ppm ②PDJ25ppm+GA10ppm 対照: GA25ppm ・ 立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上	継	継) ・ 効果、薬害の確認
	ユス	適用性 自主 (H19)	高知農技果試 (1)	[花芽抑制による樹勢維持] ・ 収穫直後～収穫約1ヶ月後 ・ ①GA50ppm ②GA25ppm ③PDJ50ppm+GA25ppm ④PDJ50ppm+GA10ppm ・ 立木全面散布又は枝別散布 注) 200～300枚程度着葉した枝を 試験区とし、3反復以上	継	継) ・ 効果、薬害の確認
	ウツクミカン	適用性 新規	愛知農総試蒲郡 和歌山果試 徳島果樹研 (3)	[落果防止] ・ ①満開7～10日後 PDJ50ppm+GA10ppm ②満開7～10日後 PDJ25ppm+GA10ppm ③開花始め PDJ50ppm+GA10ppm ④開花始め PDJ25ppm+GA10ppm ・ 枝別散布 注) ウツクミカンでは300枚以上、中 晩柑では500枚以上着葉した枝が ある樹を使用し3反復	継	継) ・ 効果、薬害の確認
	伊予柑	適用性 新規	山口柑きつ振興 愛媛果試みかん研 (2)	[落果防止] ・ ①満開7～10日後 PDJ50ppm+GA10ppm ②満開7～10日後 PDJ25ppm+GA10ppm ③開花始め PDJ50ppm+GA10ppm ④開花始め PDJ25ppm+GA10ppm ・ 枝別散布 注) ウツクミカンでは300枚以上、中 晩柑では500枚以上着葉した枝が ある樹を使用し3反復	継	継) ・ 効果、薬害の確認

B. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率 (%)	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (数)	試 験 設 計 [対象雑草; ねらい] ・ 処理時期 ・ 薬量 g・mL<水量L>/10a ・ 処理方法	判 定	判定内容
ジベレリン水溶+PDJ液 [委託者]	清見	適用性 新規	和歌山果試 (1)	[落果防止] ・ ①満開7~10日後 PDJ50ppm+GA10ppm ②満開7~10日後 PDJ25ppm+GA10ppm ③開花始め PDJ50ppm+GA10ppm ④開花始め PDJ25ppm+GA10ppm ・ 枝別散布 注) ウンシュウミカンでは300枚以上、中 晩柑では500枚以上着葉した枝が ある樹を使用し3反復	継	継) ・ 効果、葉害の確認
	不知火	適用性 新規	広島農枝三原 熊本農研果樹 (2)	[落果防止] ・ ①満開7~10日後 PDJ50ppm+GA10ppm ②満開7~10日後 PDJ25ppm+GA10ppm ③開花始め PDJ50ppm+GA10ppm ④開花始め PDJ25ppm+GA10ppm ・ 枝別散布 注) ウンシュウミカンでは300枚以上、中 晩柑では500枚以上着葉した枝が ある樹を使用し3反復	継	継) ・ 効果、葉害の確認
	ポンカン	適用性 新規	大分果樹研 鹿児島農総果樹 (2)	[落果防止] ・ ①満開7~10日後 PDJ50ppm+GA10ppm ②満開7~10日後 PDJ25ppm+GA10ppm ③開花始め PDJ50ppm+GA10ppm ④開花始め PDJ25ppm+GA10ppm ・ 枝別散布 注) ウンシュウミカンでは300枚以上、中 晩柑では500枚以上着葉した枝が ある樹を使用し3反復	継	継) ・ 効果、葉害の確認
	ウンシュウ ミカン	適用性 継続	山口柑きつ振興 <徳島果樹研> <佐賀果試> <長崎果試> (4)	[樹上完熟みかんの浮皮軽減] ・ 樹上完熟収穫の3ヶ月前 (着色 開始前、蜜尻前) ①PDJ50ppm+GA5ppm ②PDJ50ppm+GA3.3ppm ③PDJ25ppm+GA5ppm ④PDJ25ppm+GA3.3ppm ・ 果実を中心に全面散布	実 ・ 継	実) [樹上完熟みかん; 浮皮軽減] ・ 収穫予定3ヶ月前 ・ ジベレリン5ppm+PDJ25~50ppm ・ 散布 (果実表面に十分付着する よう) 注) ・ 使用時に混用する ・ 処理により葉斑を生じること がある 継) ・ ジベレリン3.3ppm混用処理による 効果、葉害の確認
	ウンシュウ ミカン	適用性 継続 (H19)	山口柑きつ振興 徳島果樹研 佐賀果試 長崎果試 (4)			
	ウンシュウ ミカン	適用性 自主 (H16, 17)	山口柑きつ振興 (2)	[樹上完熟みかんの浮皮軽減] ・ 樹上完熟収穫の3ヶ月前 (着色 開始前、蜜尻前) ①PDJ50ppm+GA5ppm ③PDJ25ppm+GA5ppm ・ 果実を中心に全面散布		